

**さざなみ** : **滋賀医科大学附属図書館報** No.45  
(2000.2)

発行年	2000-02
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/1155">http://hdl.handle.net/10422/1155</a>



増築工事を終えたコラボレーションセンター

## 滋賀医科大学附属図書館報

No.45

### 目 次

2000年 2月

図書館と情報 .....	附属図書館長 小玉 正智.....	2
MMCと図書館との複合建物「コラボレーションセンター」施設、ついに完成 ...		3
新営「コラボレーションセンター」における図書館とMMCとの連携について ...		6
附属図書館利用講習会（報告） - 平成11年1月～平成12年1月 - .....		7
学外臨床実習関連病院に図書館の利用サービスを拡大.....		7
入院患者さんに図書館の閲覧サービスを拡大.....		7
寄贈図書紹介.....		8
附属図書館委員会委員（平成12年2月1日現在）.....		8

# 図書館と情報



附属図書館長 **小玉 正智**

私は前任の前田敏博図書館長のあとを引き継ぎ、平成11年4月より就任させていただきました。

図書館は従来より教育・研究・臨床における学術情報を提供する最重要拠点として役立っていますが、近年図書館は大きな変革の流れのなかにあります。

本学では開学以来、情報処理関係の組織に多くの問題を抱えていましたが、学内措置により平成10年4月から図書課のなかに「マルチメディア係」が新しく設置され、学内の情報処理を所掌することになり、それ以来学内LANの設置や情報機器の管理、情報サービスが円滑に行われ、学内情報の発信が一挙に活性化されてきました。

さらに、去年9月には国立医科大学では初めての図書館との複合建物として「コラボレーションセンター」施設が完成し、その面積も以前の1.8倍の広さとなり、大学の情報発信基地の中心としての「インターメディアセンター」構想が構築されています。

したがって、本学図書館は従来とは異なる情報ライブラリーという新しい機能をもった施設となっています。

本年から地域医療への情報提供の一環として、本学の関連病院(本学学生の学外臨床実習協力病院)に勤務する医師や看護婦などの職員に対して、希望する方には利用登録をしていただき24時間の図書館利用や文献複写などのサービスをする体制を開始し、また本学附属病院の入院患者にも開放する等、地域に開かれた図書館の役割を目指しています。

今後、本学図書館が教育・研究・臨床における充実した知的支援機関としてさらなる発展をするよう、皆様の絶大な御支援をお願い申し上げます。

(こだま まさし)

## MMCと図書館との複合建物 「コラボレーションセンター」施設、ついに完成

平成10年12月以来、附属図書館横に連結して増築工事が進められていたマルチメディアセンター（以下、「MMC」という）との複合建物「コラボレーションセンター」施設が、平成11年9月ついに完成しました。

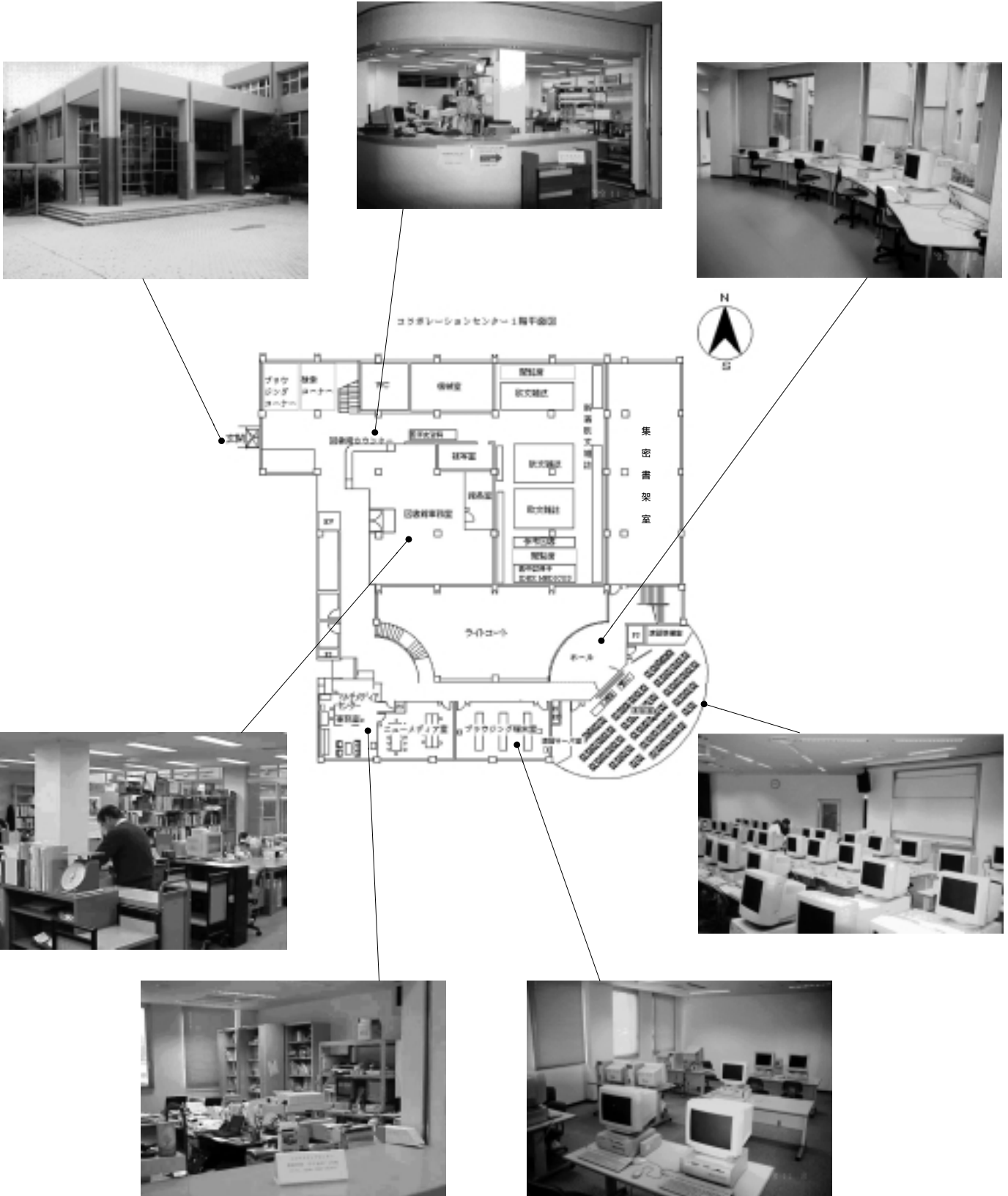
このことにより、従来学内の数カ所に分散配置されていたMMCの演習室・各種システム機器室等が統合され、情報処理分野においてより有機的かつ効率的な研究教育へのサポートが期待できるとともに、最新学術情報の提供部門たる図書館にとっては、電子図書館的機能をより充実すべく、MMCとさらに緊密な連携のもとに今後の諸課題にとりくんでゆける環境が整備されたという点で大きな意義があります。また集密書架室（約7万冊収容可能）が増築され、すでに満杯状態の蔵書保管問題も向こう10年間は解消できる見通しがついたところです。

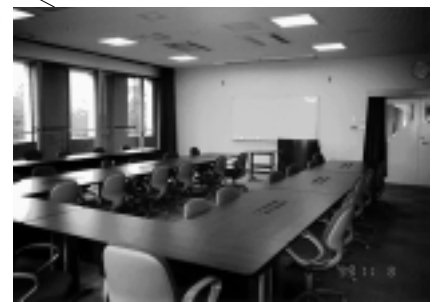
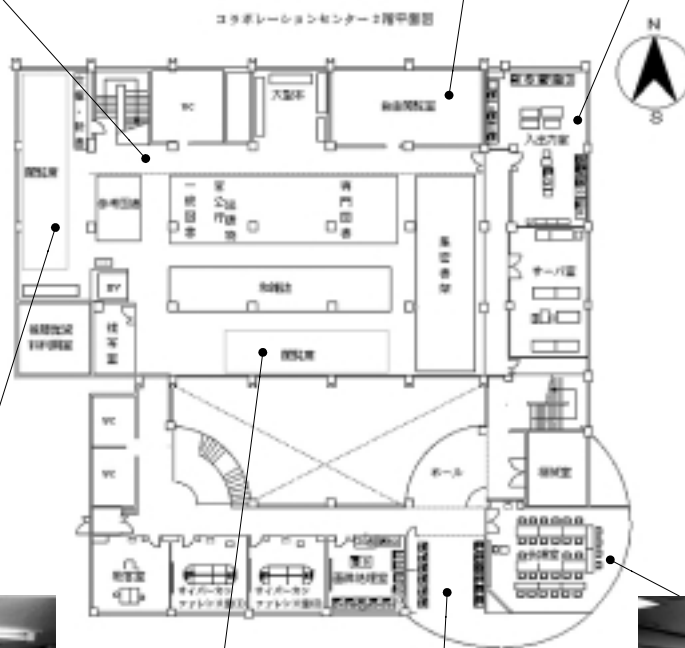
しかしながら、建物は完成しましたが、当初より計画していたMMC関連のサイバーカンファレンス室・画像処理室などの新規設備、さらに電動集密書架や車椅子併用の入退館ゲートの設備等、予算の関係上、まだ実現に至っていない問題がかなり残されており、これらの整備について早急にとりくんでゆく必要があります。

このような「コラボレーションセンター」施設の実現は国立医科大学の中では本学が最初でありましたが、今後どのように図書館が情報処理部門と一体となって、最新学術情報の提供あるいは発信基地としての役割を担ってゆくのか、大いに注目を集めることになるかと思われます。



コラボレーションセンター北東面





## 新営「コラボレーションセンター」における図書館とMMCとの連携について

新営建物は、最新学術情報の提供の場、さらに本学からの研究情報発信基地として位置づけられ、既に公私立大で次々に再生されつつある学術情報総合センター的な機能を果たしていくことが期待されています。

そこで、MMC（マルチメディアセンター）について、その組織と業務内容を簡単に紹介いたします。

MMCは平成9年4月、学内措置施設として発足し、図書課に「マルチメディアセンター係」を設置し、係長は総務係長が兼務していましたが、10年4月から「マルチメディア係」に改称し、主に同センターの業務を所掌しています。

組織：マルチメディアセンター長は、図書館長が兼務。

専任教務職員1名。

助教授2名、講師2名、助手2名、技官3名及び事務官1名がそれぞれ兼務。

図書課マルチメディア係は係長と係員2名（内1名は非常勤職員）がセンター関連業務を所掌。

業務：同センターは、図書館および実験実習機器センターとの相互協力の下に情報ネットワークの整合を図り、情報を広く教育・研究に活用し、医学・看護学の発展に資することを目的とする。  
（設置規程第2条）

### ・ネットワーク管理

学内LANシステムの管理・運用ならびにネットワーク接続機器等の管理

### ・情報処理教育分野へのサポート

学生に対する情報処理教育支援

教職員・学生に対する情報リテラシー教育の一環としての各種講習会の開催

### ・研究部門・事務部門の各種情報のデジタル化

研究者データベース・研究業績データベースの作成ならびに維持管理

事務部門の業務効率化に対する支援

### ・Eメール活用の促進（メールアドレスの発行・利用講習会等）

### ・学内外への情報発信の推進

大学ホームページの作成・充実化への支援ならびに作成指導

学内における他の情報処理関連部門との連携促進によるサービスの充実

図書館としてはMMCが設置されて以来、マルチメディア係を軸に図書業務と情報処理関連業務との連携に取り組んできましたが、これまでの成果及び今後の課題については次のような事項が挙げられます。

### 〈これまでの成果〉

- 1．文献検索においては、既に平成10年度より、各研究室の端末からCD-ROM（MEDLINE、医学中央雑誌等）による検索を可能にした。
- 2．図書館における各種サービス業務について、Eメールの活用による処理を促進。

### 〈今後の課題〉

- 3．文献検索ガイダンスやオリエンテーション（年に5～6回実施）において、MMCエリアの共用により、講習内容の効率化・レベルアップを図る。
- 4．文献資料の電子化プロジェクトの構築。
- 5．MMCエリアにおけるチュートリアル教育での図書資料の効果的な活用。
- 6．県下の本学関連病院に向けて、ネットワークを介しての最新医学情報を提供するシステム環境の整備充実。
- 7．県下の公共図書館との文献情報オンライン化を構築し、具体化にむけて取り組む。

## 附属図書館利用講習会(報告) (平成11年1月～平成12年1月)

4月12日(入学式)

新入生オリエンテーション

5月10日

平成11年度医学総合研究特論(大学院特別講義)文献検索に関するオリエンテーション

5月13日

平成11年度医員(研修医)の診療に対するオリエンテーション・文献検索に関するガイダンス

5月26日

大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程院生)の文献検索ガイダンス

7月1日-2日

社団法人滋賀県看護協会・第6回看護管理(ファーストレベル)研修会・「看護研究」の文献検索ガイダンス

平成12年1月13日

看護学科第3学年文献検索ガイダンス・医学中央雑誌CD-ROM検索実習

## 学外臨床実習関連病院に図書館の利用サービスを拡大

平成11年12月15日から実施

附属図書館においては、「コラボレーションセンター」施設の増築を機に、本学学生の学外臨床実習を受け入れている滋賀県内及び京都府下の関連病院に所属する医師・看護婦・技師等の方々を対象に、図書館の利用サービスを拡大することとし、本学職員と同様24時間利用や貸出・文献複写・レファレンス等に便宜を図ることとなりました。

まず試行として市立長浜病院のみを対象に平成11年12月15日から実施していますが、今後その他の関連病院にもサービスを拡大していく予定です。

利用希望の方々には年度毎に登録申請を行っていただき、「図書館利用証」を発行のうえ、各種利用サービスを提供するシステムをとっています。

図書館としては、地域の医療機関の方々にも24時間利用によって何時にでも入館していただき、じっくりと資料に接し、また最新学術情報にもアクセスを可能とし、わずかでも医学・医療の発展に役立てていただければと願っています。

## 入院患者さんに図書館の閲覧サービスを拡大

平成12年1月6日から実施

附属図書館では、本院に入院している患者の方々を対象に利用サービスを拡大することとし、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時(祝日を除く)までの時間帯に限り閲覧のみ利用していただくことになりました。

患者さんには、主治医による「図書館利用許可証」をカウンターで提示のこと等を条件といたします。

患者の方々には図書館で適宜の医学・医療情報に接することによって、各自の健康管理に役立てていただく一助になればと願っています。



## 寄贈図書紹介

『NEW耳鼻咽喉科・頭頸部外科学』(南江堂1999) WV / 100 / New  
北嶋和智教授(耳鼻)執筆

『硝酸薬のすべて』(エクセプタ・メディカ1999) QV / 156 / Sho  
木之下正彦教授(1内)編集

『アトラス尿路変向術』(南江堂1993) WJ / 168 / Ato  
岡田裕作教授(泌尿)編集

『泌尿器科第2版』(メディカ出版1994) WY / 164 / Hin  
岡田裕作教授(泌尿)執筆

『内科学書改訂第5版』(中山書店1999) WB / 115 / Nai  
吉川隆一教授(3内)執筆

『気がつけば100歳!』(日之出出版1999) WT / 104 / Kig  
高橋三郎名誉教授 監修(訳)

## 附属図書館委員会委員

平成12年2月1日現在

教授 小玉 正智 外科学第一講座(委員長)  
教授 工藤 基 解剖学第二講座  
教授 陣内皓之祐 生理学第一講座  
教授 堀池喜八郎 生化学第一講座  
教授 上原 正巳 皮膚科学講座

教授 吉武 一貞 歯科口腔外科学講座  
教授 泊 祐子 地域生活看護学講座  
教授 寺田 俊明 数学  
助教授 森田 一平 独語  
教授 山路 昭 薬剤部

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」No.45

2000年2月発行

編集・発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520 2192 大津市瀬田月輪町  
TEL .077 548 2077 FAX .077 543 9236 e-mail. hqtosyo@belle.shiga-med.ac.jp